

2 【視点2】 複式学級のよさを生かした〈学びの自覚化〉

(1) 子供たちの考えを基にした学習のまとめ

(関連する複式学級のよさを生かした指導 **あ** **い** **え**)

〈学びの自覚化〉を図るために、考えの共通点を基に、自分たちで学習のまとめをつくらせるようにしている。

「みんなで探し出した共通点の言葉を使って、学習のめあての答えを探す」という共通理解(資料9)の下、学習のまとめを子供たちにつくらせている。そのため、考えの共通点は、発表ボードに印を付けたり、黒板に書き出したりして、可視化し、子供たちがまとめをつくっていくときに、積極的に活用できるようにしている。

【資料9 算数科の解決方法のイメージ】

共通点は、「はじめにもっていたものからのりを引いている。」だ。これらを使って、めあての答えになるようにすると、まとめは、「はじめの数からのりの数を引けばよい。」となるね。

このようにすることで、子供の発達の段階や学習内容によって差があるが、子供たちだけで学習のまとめができるようになってきた。また、自分の考えや話合いが学習のめあてと対応しているものになっているか意識して取り組む姿が見られるようになり、学習のめあてをより意識するようになってきた。

このように、複式学級のよさを生かした指導を行うことで、次のような効果が期待される。

複式学級のよさを生かした指導	期待される効果
あ	子供から出された共通点の言葉を使って、子供主体の学習のまとめをすることで、達成感や成就感を味わい、次の学習への意欲を高め、より主体的に学習に取り組むようになる。
い	探し出した共通点を基に、全員でまとめていくことで、協力的な態度が身に付くようになる。
え	教師はコーディネーターとして、子供たちがつくった学習のまとめが、めあての答えとなっているか確認することで、子供たちだけで学習のまとめができるようになる。

(2) 自分の変容を捉える考え直しの時間 (関連する複式学級のよさを生かした指導 **え**)

〈考えの共有〉を図るために、考え直しの時間を設定し、自分の考えの変容を捉えることができるようにしている。

自分の考えがどのように変容したのか捉えやすくするために、考えのパターンを強固・付加・修正(P6-資料4)と捉え、最初の考えと最終的な考えを比較させ、資料10のように、考えの変容が一目で分かる印を貼って可視化させている。

【資料10 変容を捉えさせる印】

じ じしんがついた
か 考えがかわった
っ つけかわれた